

君は一人じゃない  
～手を差し伸べる学生支援室～

A班第2グループ  
チーム：And Do

学生の理想の状態（どうあるべきか）

- 学生生活が充実している
- 学生生活に満足している

## 充実・満足している状態とは？

- コミュニティに所属し、活動している  
(課外活動、友人関係、ゼミ)
- 成長している実感がある  
(分野の理解、留学、就職活動)
- 他人・社会に貢献している  
(ボランティア等)

**所属**

**成長**

**貢献**

## 成長とは？

チームワークを発揮する  
仲間と困難を乗り越える  
仲間と達成感を分かち合える



コミュニティに所属していることが決定的に重要

## コミュニティ形成支援

### ○従来の学生支援室

取り組み例：

・学生生活の悩み(授業・友人・課外活動・経済的困窮)を相談できる場所。

⇒ただし、学生に来訪してもらうことが前提

例えば・・・一歩が踏み出せない学生がいる。。。

①「ランチメイト症候群」 トイレでお昼を食べる

②授業に出られない等の学生を救いたい

⇒どう救うか？

## 提案：新しい学生支援室

- 問題を抱える学生を主体的に救う
- コミュニティの形成・参加を支援する
- 支援する側、される側の成長を促す



- アンケートの創造的活用
- 迎えに行く。

## アンケートの創造的活用

- ☆「知るため」のアンケートから  
「知らせるため」のアンケートへ
- ・履修登録前に学生生活全般のアンケートを行う。
  - ・項目はYES/NO型の質問を中心に行う。
  - ・アンケート結果を集計し、学生に開示する。
- ⇒「一人ではない」ことを気付かせる。

## ☆迎えに行く☆

- ・アンケート結果をもとに、不安・悩みを抱える学生に対し個別に対応する。
- Ex)電子メールによるコミュニケーション。何に対し、どういう不安・悩みがあるのかを聞き出す。信頼関係の構築。メールでのやり取りから支援室への来訪を促す。
- ⇒データの回収、データの開示、個別の学生対応により、不安・悩みの緩和・解消を目指す。

**迎えにいけます！！！！**

それだけではなく...

支援できる・したい人の  
活動の場を提供する

- ・アンケートには「どういうことに興味があるのか」「何ができるのか」「何がしたいのか」という項目を設ける(自由記述)。
- ・学生の願望を拾い上げ、活動を支援する。

⇒不安・悩みを抱える学生と「支援したい」学生のマッチングを図る

**学生の熱い想いを離しません！！！！**

## アンケート実施・集計を軸に

- ①データの開示による仲間探し
- ②紹介(支援を必要とする側と支援したい側のマッチング)
- ③データベース化、相談に対する利用



- より多くの学生に手を差し伸べる
- 支援活動による学生生活のさらなる充実

適切な就職活動支援

学習意欲向上  
適切な単位取得

支援される側から  
「支援する」側へ



蓄積されたデータ

学生支援室

アンケート  
WEB



つながりを  
作る・うみだす



対面でのやり取り  
マッチング



より強固な  
つながりへ